大塚　礼　先生

国立長寿医療研究センター
老化疫学研究部 部長



性差に着目した脳老化・認知機能低下予防
―地域住民を対象とした長期縦断疫学研究―

12月25日(Fri) PM 4:00～
大阪大学　微生物病研究所　谷口記念講堂

神経変性疾患である認知症は、世界的な人口高齢化に伴い有病者数が急増している。我が国でも2018年以降、認知症は要介護原因疾患の第一位となり、後期高齢者数の増加に伴い有病者数は増加している。認知症の有病率は男性に比し女性で高く、アルツハイマー病の発症率は男性の約2倍と明確な性差を認めるにも関わらず、性別の認知症発症軽減策は明らかでない。Lancet国際委員会の報告（Livingstonら.Lancet,2024）でも、認知症の45%は修飾可能な14の危険因子により説明され、公衆衛生学的アプローチの重要性が説かれているものの、性差を考慮した予防医学的エビデンスは明示されていない。個人レベルでは性（生物学的性）は固定されており、社会実装を図る上では、それぞれの性にとって有効な認知症発症リスク軽減策を見出すことが重要と考える。
本セミナーでは、「国立長寿医療研究センター・老化に関する長期縦断疫学研究（National Institute for Longevity Sciences–Longitudinal Study of Aging: NILS-LSA）」から示された地域住民の認知機能や脳局所容積の加齢変化と、認知機能低下や海馬容積の萎縮を緩衝する可能性が示された食・栄養学的要因を紹介する。現在、同コホートでは凍結保存血漿を用いて認知症の神経変性病理を反映する各種マーカーを測定しており、Neurofilament light chain（NfL）濃度と認知機能の関連から推定した認知予備能指数の関連要因についても、性差に着目して紹介する。これらNILS-LSAの知見と国内外の疫学研究成果を踏まえ、脳の構造的変化の抑制と認知機能の維持という両側面から、性差を考慮した認知症予防策を考える。

セミナーは日本語で実施予定です。
生命機能研究科、理学研究科、医学系研究科の単位認定セミナーです
Contact ：微生物病研究所　生体統御分野　石谷　太
tel: 06-6879-8358/ mail: ishitani@biken.osaka-u.ac.jp